

令和2年度 森林動物研究センターシンポジウム

－ 開催報告 － (2021.02.27)

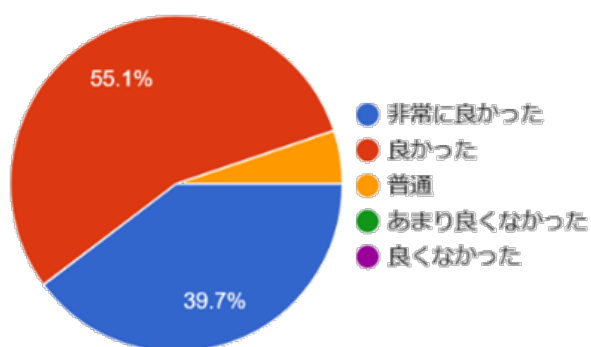
1) 受付人数 474名

オンデマンド配信3月9日終了、全期間で1315回視聴となりました。

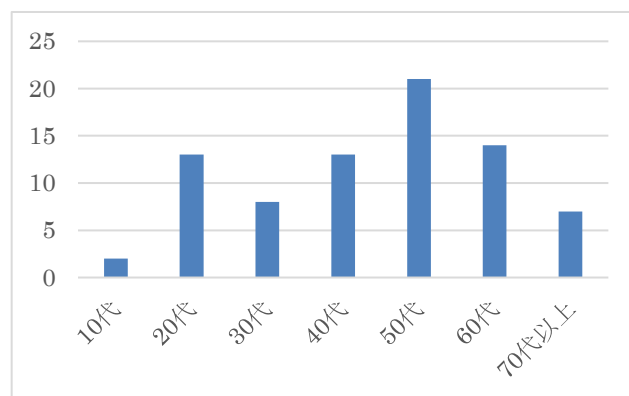
当日の最大視聴者は185人です。

2) アンケートの結果 (3月15日まで受け付け、78名の回答をいただきました)

2-1) シンポジウムの全体評価



2-2) 回答者年代



2-3) 各内容に関するコメント(一部抜粋)

①境界線を超えるツキノワグマたち -衛星 GPS の追跡から 40 件の回答

- ・クマガが川(住宅地)を横断する地点が限定的であるならば、また、環境整備により誘導できるなら、そこにオーバブリッジなどを作り、遺伝的交流の維持と被害対策が両立できるのではと思った。
- ・ツキノワグマの移動には個体ごとに違いがあるものの、慎重かつ時には大胆に移動している様子が印象的でした。クマは山奥にいる動物という既成概念は通用しないこと、オスはとくに山に押し込めておけるレベルではないということを知り、あらためて防除対策を考えなおす必要があると感じました。
- ・私は獣害対策に興味があったのですが、イノシシ・シカに関わることばかりを考えており、ツキノワグマについては目新しく、クマが人家にほど近い河川敷を通っていることや雌雄での行動圏が異なることが非常に面白く感じました。
- ・子連れのメスも市街地を横断していて驚きました。移動のために日常的に人の生活圏を利用していることが可視化されることで、より誘引物除去など執着させない対策が重要だと改めて感じました。

②ニホンザルの行動圏を GPS で探る -群れの動きをモニターする 28 件の回答

- ・GPS によるデータ取得率の高さを初めて知りました。群れによる季節変動の違いが面白いと思いました。
- ・大変勉強になりました。サル出没の予測をメールで知らせによって、実際に住民に防御の行動をとっているのか、メール配信を始めてからどのぐらい効果があるのかも知りたいと思いました。
- ・どのような環境に棲んでいるかで、行動様式に違いがある。私達人間も北と南では違うので、当然と言えば当然なのでしょうが、このような調査がないと気づかないことが多いと思いました。農作物への被害を減らすヒントがあると感じました。
- ・「フェノロジー」という言葉を初めて聞きました。これまで、鹿猪が季節により食物の変化や繁殖等により、生息場所が変化することは経験的に分かっていましたが、群れをつくるサルは、森林や農耕地などエサの確保の違いにより生息域に応じて異なることが GPS により、より明確に分かったところが面白かったです。近年、先輩猟師方が温暖化などにより季節移動や繁殖などで変化が起きているという話を聞き、この研究も長い期間(年)研究できれば興味深い結果が出るのではないかと期待します。

③シカ生息下での人工林伐採跡地における広葉樹林再生の課題 39 件の回答

- ・兵庫県での取組みで減少傾向にあります。他県からの増加対策が地域を限定必要と感じました。最近では竹林が多く広葉樹林の再生の必要性を痛感します。
- ・長期にわたる広葉樹林再生の実験は、非常に興味深い物だった。もちろん、植林するのが目標とする森林への一番の近道であるが、コストなども考えた際に、シカ柵だけでもある程度まで再生するのは、良い発見だと感じた。また、樹種も鳥散布型の樹木が多種育成していたことについては、周辺に広葉樹林が少ないような場所でも、再生の可能性が見えて良かったのではないかと感じた。・当地との比較で考えていましたが、いわゆる野生動物とヒトとの”歴史”が重要になるので、平安時代からの報告があって、解りやすかった。明治期に出された対策の図式と現在は、素材が違うだけで、基本線は同じであると思われる。
- ・この研究は非常に興味深いものでした。ぜひ強化間伐&天然更新の提案を全国の森林関係者に広めてほしいと思います。長期的には農業被害を軽減することになると思うので。

④自動撮影カメラでとらえる島で増え続けるイノシシ 32 件の回答

- ・非常に示唆に富んだ内容で参考になった。2010年代から増えているという話。本当について最近の話であり、喫緊の課題であると感じた。現在、東灘区に住んでいるが今まで多くのイノシシに遭遇して危険を感じている為、それぞれの共存について更なる研究に期待したい
- ・イノシシの掘り起こし痕跡の話は大変興味深かったです。季節変動や地域差、植生間の違いに左右されそうですが、その考慮が難しく感じました。掘り起こし痕跡は専門の道具や知識がなくても記録できると思うので、論文化を楽しみにしております。
- ・私の勤める岩手県遠野市で、令和2年に、初めてイノシシが5頭も捕獲され、今後、棲息が定着して、農作物被害が顕著になってくるのが心配です。メスの乳房が10個以上あるのがイノブタだと聞いています。このイノブタは、出産頭数も多く、年に2~3回の出産をすとも。恐ろしい勢いで繁殖数を増やすと言われ、これも心配です。
- ・15台ずつのカメラはかなりの労力でイノシシの行動がかなり理解できたものと思われる。学問の立場にとらわれないのなら、得られた知見その労力をいまずぐ捕獲活動につぎ込んだらこれらの島については問題そのものが解決するレベルかなとも思う。イノシシ上陸の影響をすべて「被害」で語るのはいかがか。狭い島でイノシシの有無で生態系は大きく変わることは理解できるが、イノシシが自力でたどり着ける範囲であれば、いくつかの島々に適度にイノシシがいるほうが自然の姿により近く、本土と島嶼を含む全体の生態系として豊かといえるように思う。

⑥野生動物被害への感情をモニタリングする -被害軽減のモデル集落の調査から 34 件の回答

- ・人の原動力になる感情に着目した被害対策の結果は面白いと思った。周辺地域への影響もモデル集落での被害対策の結果だけではなく、住民の前向きな感情の力も大きいように感じる。住民が協力し合うことで関係性も深まり、集落の雰囲気も改善されていくだろう。そういった活気のある集落は周りからも目を引き、被害対策の拡大につながっているのではないかと考えた。モデル集落である小河から影響を受けて被害対策に取り組み始めた周辺の集落は小河の何を見て、聞いて、感じて、被害対策に取り組もうと思ったのかにも興味がある。
- ・野生動物による被害対策は地域住民の方の立場になって進める必要があると考えているので、地元の方の声を交えて対策状況を見せていただきとても勉強になりました。
- ・大変感銘を受けました。被害軽減が正のフィードバックを生んで、様々な意欲向上に繋がることを実証されたのは多くの地域にとって参考になると思います。テキストマイニングと共起ネットワークの解析は他の地域でも行われると良いと思いました。
- ・森林動物研究センターの活動が被害地域への助けとなり、地元の活動を促し改善取組みを繰り返され、ご苦労に感銘しました。活動の継続と全国的なアピールが必要と感じます。
- ・テキストマイニングという手法を初めて聞きました。集落対策で防護柵などを設置し、被害が少なくなると苦情が減るのは分かっていますがこのような手法を利用すると数値化できることを知り興味を持ちました。だれでも使える手法になれば、獣害対策に従事する行政の方々の励みになると感じました。

⑦兵庫県における被害対策の取組について - 獣害に強い集落の育成 - 29 件の回答

- ・森林動物研究センターの活躍で専門家の技術指導の成果が実を結んで感謝です。過疎化と高齢化での人手不足が活動の障害にならないかと感じました。
- ・集落対策を進めないと県下の獣害は減らないと思っています。どんなことからでもいいので取り組む集落を増やしていこうと思っていますのでご協力のほどよろしくお願いします。
- ・モデル地域の選定基準が参考になりました。
- ・起爆剤となるようなモデル集落の育成に力を入れていることにとても興味をひかれた。鳥獣対策サポート派遣支援事業や獣害対策チームのような専門知識のある人たちが現地の人たちと密着して被害対策をすることでより効果のある対策になると思う。また、行政間の連携や情報共有などがあることで県全体で問題に取り組んでいるように感じた。県内では獣害対策チームを設置して情報共有を行っていることは分かったが、他県との連携がどのようになっているのか、機会があれば知りたい。

2-4) オンライン開催についてのご意見ご感想 (一部抜粋)

- ・初めてオンラインのシンポジウムをききましたが、大変わかりやすかったです。ただ、研究発表要旨集が詳しく(特に図表等)もつと分かりやすいものになったと思います。
- ・YouTube にアーカイブが残されていたので、気になる発表やスライドを見返すことが出来て、便利だと感じた。オンサイトの開催では予定や居住地等により参加できない方もいると思うが、オンラインではそのあたりが解決されるので、可能であれば、今後、オンサイトの開催になったとしても、後日アーカイブを見られると非常にいいのではないかと感じた。
- ・オンライン開催となり初めて参加できた。今後もオンラインが有難い。当初の時間を大幅に超過したので今後は時間厳守をお願いしたい
- ・オンライン開催は良いことだと思います。ただ、画面や音質が不安定でした。特に発表者によって音声聞きとりにくかったり、音量にばらつきがあった。簡単にリハーサルを行った方が良いと思います。
- ・これまでは遠方から各種のシンポジウム等に参加する必要があり、時間的・費用的に参加できないことがほとんどでした。意見交換が容易にしにくい点は難点ですが、オンライン(特にオンデマンド)では上記の縛りがほぼないので非常に助かります。
- ・視聴者とのやり取りがないので、少し寂しかったです。zoom のチャット機能等で、オンタイムで質問などできるとよいと思いました。
- ・資料も分かり易く、非常に良かった。今後もオンラインの活用を希望します。
- ・事後であっても参加(講演内容の確認)可能であり、大変ありがたいです。
- ・時間や場所の制限なくシンポジウムを体験出るのでありがたいと思います。

2-5) シンポジウムで今後取り上げてほしいテーマ (一部抜粋)

- ・アライグマ・ヌートリアなどの外来生物の状況。
- ・ニホンザルのコントロールについて
- ・野生動物の野外調査と環境・理科教育に関連する内容
- ・獣害という直接的なデータだけでなく、問題解決にあたる色々なアプローチを知りたい。例えば今回の広葉樹林の再生に類した内容。
- ・市街地出没の対応についてお願いしたいと思います。
- ・引き続き、獣害の最新研究や対策の動向など知ることができるとういことです。
- ・効果的な集落対策についていろんな事例が出てくればそれを紹介していただきたいのと、旬の話題や前を見据えた調査研究みたいなものがあればありがたいと思います。
- ・センターの業務の性格上、クマ、シカ、イノシシ、そして外来種という、いわば害獣についての発表が多くなるのは仕方ないと思いますが、害獣という視点から離れて兵庫県に於ける野生動物の分布や生態についての幅広い話が聞きたいです。
- ・くくりわなや捕獲わな等の上手な仕掛け方、器具の工夫など実践編も知りたいです。
- ・集落防護柵に関する事、河畔林の伐採と緩衝帯に関する事、里山の整備に関する事
- ・獣害に強い集落の育成で取り上げた成功事例、その後の経過を取り上げてほしいです。